2022/11/6

吉田泰弘

小松の滝ケ原　石の採掘現場見学印象記

見学日時　2022/11/4　PM1:30～3:00
見学場所　石川県小松市滝ヶ原町荒谷商店石採掘現場
　　案内人　　彫刻家、ジオガイド　船津秀一郎　　荒谷商店当主　荒谷雄己

初めに

2016 年「『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」が、日本遺産に認定された。その時、小松城の石垣や滝ケ原の石などが紹介されたがそれ以上はわからなかった。
小松市街の三日市商店街の三の市朱門広場に小松の伝統工芸品として、滝ケ原石が九谷焼の台として展示はしてあった。
今回、小松市の GEMBA イベントにて、石切り場の中を見学できるということで申し込んだ。

現場まで

滝ヶ原町は、小さな　川沿いの谷にある町だが、山に向かって右手に、石を採取した跡が見える。後で聞くと最盛期はこういう場所が、町に 7 か所あったらしい。

川に橋がかかっていて、それらが石のアーチ橋になっている。
昔は 11 あったが、現在 5 個の橋が現存している。しかしこれだけ残っているのは全国でも珍しい。

見学

入口

ここには、受付はなく、石切り場と加工場があるだけだった。

この前が「石の里水と緑のふれあい公園」で、川は穏やかできれいで、夏は水と触れ合うのに絶好の場所になっている。

一応、赤い「立入禁止」の看板と、危なそうな石には「キケン」の看板がある。

入口の左右が、石置き場、作業場になっている。

入ると、石をとった空間がでてくる。

石の中には、緑色の柔らかい層が入っていたりする。

時には、木の化石が含まれるものもある。

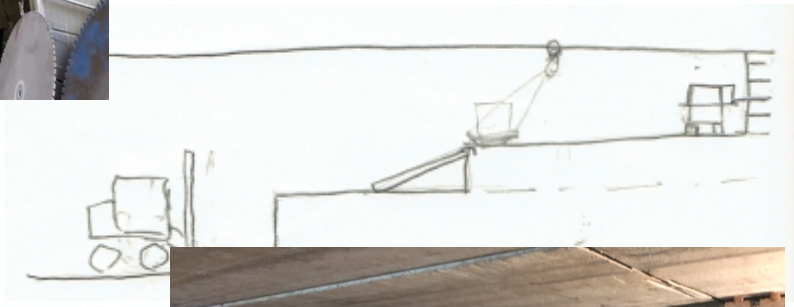
それらに当たらないように、少し上下左右を試掘しながら方向をさだめて、堀り進めている。

ちなみに、このような木の化石がある石は、掘り出すのも困難で高値がつくわけでもないらしい。もし掘り出せたら博物館でもあげるのに。ということだった。

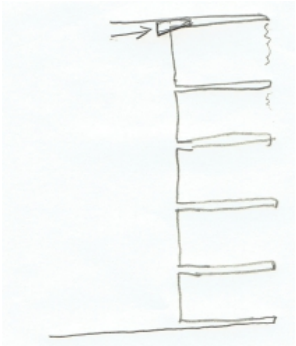
石を採取した面が、なめらかな面とごつごつした面の２種類あるが、ごつごつは手堀で、なめらかなのは機械による切断面である。

採掘部

空間の高さは、5m くらい？で、3 段に分けて採掘している。石を外に出すために、この 3 段のまま奥に進めている。
上の段差は、ロープで固定しながら斜面を滑り降ろす。
下の段差は、フォークリフトで降ろす。と思われる。



一番高い団の一番奥は、幅 7m くらいの幅いっぱいに 2 本のレールがあり、その上に石切断機がある。
上下に 5 つのブロックに切ったら、その後は楔を差し込み、ハンマで叩いて奥を割る。



機械や、鉄の部品は、ほぼすべて茶色くさびている。
特に夏などは、湿気が多く結露で水が天井からしたたり落ちているらしい。
床をよく見ると、水が落ちた場所が丸く変色している。
また、機械が真っ赤になっている状況から、長い間この現場は採取されていないように感じた。

現採掘の穴

入り口の空間の右壁に青いブルーシートが掛かっているが、その奥が現在採掘している現場。
かなり奥まで続いている。

少し奥に行くと天井に緑の層がでてきて、昔それが落ちてきたことがあるそうで、補強をした場所がある。

石を割るデモ

石を割るデモをしてくれた。穴を開けてそこに楔を入れる。
楔をハンマでたたく。ハンマの音を聞きながら、均等にたたく。
割れそうになると、音が変わる。音が変わったら少しおく。
その後、軽く叩くと石が割れる。
https://youtu.be/8-0X5-y8VR4

グッズ販売

グッズを作っている。シャレで作ったものもあるが。
結構手間がかかるのか、それなりの値段がする。

その他

昔は盛んだったが、1950 年頃からセメントにとってかわり、少なくなった。滝が原で 7 つの採石場あったが、今はここだけとなっている。
滝が原石は耐久性があり水に強い。そういう魅力も見直され、現在は、売り上げがそれなりに伸びているということだった。

参考

滝が原石は凝灰岩である。凝灰岩は細かい火山灰が堆積して長い年月で固まった石である。きめ細かいが他の石材にくらべ柔らかく風化しやすいと言われている。
しかし、滝が原石は、流紋岩質マグマが噴火した凝灰岩で、石英粒を多く含んでいる。そのため、普通の凝灰岩より目がきめ細かく、耐久性があり水に強い。また加工性もよい。磨くと光沢が出る石ではなく、さらさらして吸湿性がある。
そのため、良質な凝灰岩として、昔から、北前船などで全国に運ばれていた。

このような見学会企画いただきありがとうございました。

以上